

2020年7月16日(木)



## セネガルにおける 高等教育の現場とイスラーム —イスラーム知識人から学生信者まで

阿毛 香絵

(京都精華大学創造戦略機構・特別任用講師)

西アフリカにおいて、イスラーム、高等教育、政治とは密接に関わりあってきた。11世紀より点在したコーラン学校、植民地時代

に作られたマドラサ、スーフィー教団の教育施設、アラブ地域からの支援を得たイスラーム学校等多様な機関が政治との関わりの中で変容を遂げてきた。また設立当初は宗教色が皆無だった大学キャンパス内にも80年代からムスリム団体が活動を展開し始める。セネガルの高等教育の現場におけるイスラーム発展の経緯について明らかにすると同時に、学生達の宗教実践について現代社会との繋がりにから考察する。

250

Kae AMO



京都大学アフリカ地域研究資料センター

# アフリカ地域研究会

京都大学稲盛財団記念館3階 中会議室 15:00~17:00

2020年10月15日(木)

予約不要、参加無料

251

## サバンナを統治する —ケニア乾燥地域における権力の系譜学

Kazuki  
KUSUNOKI

楠 和樹

(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究資料センター・特任助教)

アフリカ研究出版助成記念講演

2018年度総長裁量経費(若手研究者に係る出版助成事業)

ケニア北部に広がる乾燥地域では、牧畜民の人々が数千年に渡って家畜を飼養しながら暮らしてきた。これらの社会は通常、近代国家の政治権力の及ぶ圏域の外側、またはその周縁領域と見なされている。しかし、実際にはイギリスによる植民地化以降、政府はこの地域の唯一の資源とも言える家畜に様々なかたちで介入し、その飼養者である牧畜民の生も方向づけてきた。本発表では植民地期から現在まで国家によって家畜についてどのような問題が認識され、それを解決するためにどのような介入が試みられてきたのかを辿ること、この地域の権力の系譜学について考察する。



2020年11月19日(木)

かごバッグの村

ガーナの地場産業と世界とのつながり

252

Haruka  
USHIKU

牛久晴香 (北海学園大学経済学部・講師)

アフリカ研究出版助成記念講演

2019年度総長裁量経費

(若手研究者に係る出版助成事業)

ガーナ北部のボルガタンガ地方は「かごバッグ」の大産地である。そのかごの名をボルガ・バスケットという。ボルガ・バスケットは地域の人びとと諸外国の企業、開発機関を結びつけながら、世界に名の通る特産品となっていた。本発表ではとくに、外部からもたらされる技術や制度が地域の物質文化や生活のなかに取り込まれていく過程に着目し、いかにしてボルガタンガが「かごバッグの村」になっていったのかを明らかにしていく。

